

ニューズ

第200号

発行日 平成30年12月8日
 発行者 社会福祉法人 みのり会 中台育心園 園長/千葉桂資
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市大字中431-20
 電話 0299 (69) 2222
 FAX 0299 (69) 2237
 ホームページ <http://nakadaiikushinen.jp/>

今月の生活目標

【単元】

□勤労の尊さ



【目標】

- 勤労の意義や尊さを知り健康で働ける(生活できる)ことに感謝できるようになりましょう。
- 喜んで働く態度や親切な心を持って、皆のために尽くしましょう。

一日も早い復帰に向けて

サービスマネジメント責任者 千葉 博

その時であった。6月のある日の夕方、当園の職員会議が終了した直後に、私の隣にいた妻が「30分前から右腕が全然動かない。しびれがある」と突然訴えた。もしかしたらと不安にあおられながらも急いで土浦市の病院へ連絡し、妻を職場から車に乗せ救急での受診となった。診断の結果は、やはり恐れていた病のひとつである「脳出血」。そして、この日から妻のとても長い入院(闘病)生活が突然訪れたのである。

入院して間もなく、様々な検査を実施し、病名が「脳動静脈奇形」と判明した。再発のリスクもあるというところで、後日6時間に及ぶ開頭摘出手術に踏み切った。手術は無事成功したが、疾病による右上肢麻痺とてんかんの後遺症が残る障害を持つ身となった。私たち家族にとつての平穏な生活も一変し、今後の生活に對し不安が募るばかりであった。

入院して1カ月後の7月中旬に回復期のリハビリを目的として地元(の病院へ転院(入院)した。入院期間は約4カ月と医師より説明があった。リハビリを繰り返す日々が続いているが、妻はモチベーションを維持しながら、元の心身の状態に少し



ご長寿祝い、ありがとうございます(敬老会)

でも近づけるよう懸命に励み、職場復帰を望んでいる。

そんな妻が病気になって感じたことをある日話してくれた。「病気はまったく予期していなかった。園の利用者のなかにも、私と同じように身体に麻痺のある人やてんかんの症状のある人がいる。身近な存在として接してきたが、病気になって初めてその人達の大変さや辛さ、そして逆に妻を身を持って感じることもできた。」と。その言葉を聞いた私は、妻は、これまでの歩みを省み、健康で生活できるということの大切さを実感したと同時に利用者の良き理解者として一層寄り添っていくことが重要なんだという強い思いを感じることができた。

今まで、何も考えず自然に行動できていた日常生活動作のひとつひとつが思うようにいかず、いつ起こるか分からない発作にも脅えながらも、現実のものとして人の手を借りないとならなくなった状況を受け止めなくてはいけないという苦悩。可能性がある限り、リハビリに励み、前向きな気持ちで少しずつ自立した生活ができることを切に願う。

職場や関係機関の皆様、利用者や保護者の皆様には、長期に渡り多大なるご心配やご迷惑をおかけしております。この間の皆様方からの暖かいご支援・ご協力に對し、心より感謝、お礼申し上げる次第です。

起こってしまったことを悔やんでも取り戻すことはできませんが、妻の一日も早い復帰に向けて、夫婦共々、前を見つめ、頑張つて参りたいと存じます。

尚、妻は10月末まで入院。11月からの2カ月間は、週5回の通院を継続し、職場復帰の目安は来年1月と考えております。



牛久大仏とハイポーズ(ぐるり旅)

防災の心構え

生活支援員 井関 秀一

今年、わが国は北海道地震や草津白根山の噴火、台風や豪雨による土砂災害・洪水など様々な自然災害に見舞われました。また、この夏の猛暑は「酷暑」という災害であったと気象庁が発表しています。さらに、南海トラフ巨大地震は、政府の発表では30年以内に70%の確率で発生するとされ、身近に迫る自然災害であると認識する必要があります。自然災害は事前を防ぐ事は難しく、被害を最小限にするための災害訓練や、非常時のマニュアルの熟知が大切です。

平成23年に発生した東日本大震災の際、私はまだ学生で卒業を控えていた時期でした。私が受けた被害は実家の駐車場に入ったヒビだけでしたが、コンクリートが破損するという事態に恐怖を感じたことを覚えています。それからひと月せずに当園に入職し、非常災害対応の生活からは復旧していたものの、まだ施設全体が震災の恐怖から抜け出せていないという雰囲気がありました。震災直後は建物の一部の壁や天井にヒビが入り使用できなくなったり、食材が駄目になり予定していた献立が作れなくなったりと、大変な思いをし

たとの事。大きな揺れや続く余震がもたらした恐怖心も、ひと月程度では拭い去れるものではありません。幸いにも私が防災担当になってから大きな災害は発生していませんが、いざ起こった時に訓練通りに行動できるか、夜間の人手が少ない時間帯に起きたらどうなるのか、その後の生活にどういう支障をきたすのか、不安になる要素の枚挙に暇がありません。しかし、自然災害は起きるものと認識し常に危機感を持つこと、様々な想定をした訓練をして、有事の際に職員がとるべき行動をシミュレーションすることで被害は最小にできるのです。私も防災係として職員や利用者の自然災害に対する意識向上に努めていきたいと思えます。災害に対する心得については過去何度も同じように述べてきました

が、防災の第一は「備えること」。自分自身、職員、利用者の皆さんが常に心に留めておけるように、何度でも繰り返し伝えていくことこそが重要だとも思っています。

最後に、冒頭で述べました北海道地震、草津白根山の噴火、台風や豪雨による土砂災害・洪水の被害に遭われた皆さまに心よりのお見舞いを申し上げます。



グループホームだより

ごはんのはなし

生活支援員 千葉知香

グループホームの朝夕の生活は世話人さんが守っています。朝は温かい朝食を作るために早くから取りかかり、夜は入浴介助をしながら夕飯づくり。みんなと一緒に餃子やハンバーグを作ったり、困ったことがあったら相談に乗ってくれたり、利用者さんにとっては第二の母的な存在です。

利用者さんの大きな支えとなっている世話人さんですが、今年度からGH千葉に、世話人さんがいない、“自活”の夜が週に一回組まれることになりました。その際の一番の課題となったのが食事です。職員不在時は安全面から火の元や電子レンジの類は使用を控えてもらっており、炊飯器と電気ポット、そして作り置きのお惣菜が頼りです。そんなちょっと不便な自活。最初から何も問題もなく、とはいきませんでした。いくつかの失敗から学んだことも多くありました。今では自活の時のお惣菜を世話人さんにリクエストしたり、スーパーにみんなで一緒に行き興味のある食材を選んだりしているようです。先日、「こないだの自活で、梅干しおにぎり作ってみたよ！」と、満面の笑みで報告してくれました。「おいしかった」「今度作ってあげるね！」。

小さな自信が皆をたくましくしてくれました。そして、皆さんの前向きさと強さを感じたのでした。



県南地区
交流会



ある休日のお昼



イモ掘り

グループだよ

★ひまわりグループ

『プラスの連鎖』

ひまわりグループには、朝のゴミ捨て担当という係があります。ゴミ袋を倉庫に運ぶのがその仕事で、メンバーは倉嶋さんと菅谷さん。毎朝、暑くても寒くても係の仕事は欠かさず行ってくれています。

そんなゴミ捨て係ですが、最近少し事情が変わってきました。高齢化に伴い紙パンツ等を使用する方が方が増え、ゴミの量が増えたのです。これまでは一日2袋程度だったのが、時々3、4袋になることもあり。そんな時、惜しまず手を貸してくれるのが、池田さんと大谷さんです。お二人はゴミ袋が2個以上あるのを見ると、さっとやってきて持ってくれます。倉庫から収集所まで大量のゴミ袋を運ばなければならぬゴミの収集日にも、何も言わずに手伝いに来てくれるのです。

毎朝の仕事を一生懸命やっている菅谷さんと倉嶋さんを見て、大谷さんと池田さんも手伝おうという気持ちになったのでしょう。仲間同士のプラスの連鎖で、ひまわりグループは今日もみんな元気です。(千代田)

★すみれグループ

『私の洗濯カゴ』

すみれグループは13人の大所帯。洗濯物も大量です。一枚一枚畳んで、名前毎に分けて、各居室のタンスに片付けて…。以前は利用者さんも全員でとりかかっていた洗濯物畳みですが、高齢のため身体機能が低下した方が増えた現在、一緒に畳んでくれるのは3、4人。効率化を図り、百均で各居室の洗濯カゴを購入しました。居室毎にまとめて入れて、居室毎で片づける。これだけで随分時間短縮になりました。

さて、乾いた洗濯物をカゴに振り分けていると、茂木さんがやってきました。「私もこのカゴが欲しい」。かわいい物に目がない茂木さんは、ピンク色のカゴがお気に召したようでした。もちろん、茂木さんの居室用のものもあるのですが、茂木さんは『自分専用』が欲しいとの事。普段はあれこれ欲しいと言わない茂木さん。早速購入してきました。そこに名前を書いて渡すと大喜び！大切にそうに抱えていきました。以来、洗濯畳みの時間を楽しみにしている茂木さんです。(高野)

★あざみグループ

『東京観光(一泊旅行)』

去る10月24日、25日、毎年恒例の一泊旅行があり、あざみグループか



勝つても負けてもいい思い出です (中野西小運動会)

らは坂本さんと柳堀さんが参加されました。今年の上野動物園と東京スカイツリー観光。どちらも話題の観光スポットとあって、目的地を聞いてからのお二人はずっとわくわくと期待に胸を膨らませていました。

一日目のメインは上野動物園でした。動物好きの坂本さんは、どの動物を見ても「かわいいい」「すごいね」と、喜んでいました。二日目は東京スカイツリーへ！高い所が苦手な柳堀さんは最初は強張った表情でしたが、第一展望台に到着すると予想外の広さと賑やかさで安心したようでした。途中、気圧の変化で耳がキーンとなったのも、普段は経験

しないことで不思議そうな顔をしていました。そして地上450mの展望回廊では、高さへの恐怖よりも景色の良さに、二人とも最高の笑顔を見せてくれました。実は、私も高い所は得意ではないのですが、二人の笑顔で怖さは吹き飛んでいきました。帰りのバスでは、また来年も行きたいねーと、二人で話し合っていました。私もご一緒できたら嬉しいです。(近藤)

★なでしこグループ

『明日の予定は?』

夕方、ホームの皆さんに挨拶し退勤しようとする、すかさず「明日は?」と聞きにくるのは久保田さんです。「明日は早番です」と答えると、「遅番は誰?」「泊まりは?」と、明日の予定が気になって仕方がない様子。明日出勤の職員を伝えると満足そうに「また明日」と送り出してくれます。その後は「明日の泊まりは〇〇さんだつて」「△△さんは早番。」とホームの友達に教え、「□□さんは休みだね」と、確認をします。時々、先の予定を聞きすぎて忘れてしまう事もありますが、そんな時には周りの友達が覚えていて教えてくれます。

明日の出勤確認は久保田さんの日課のようになっていますが、私は気にかけてもらっている事がとても嬉しいのです。(兼子)

一泊旅行

地上450m!!



東京スカイツリー

西郷さんと♡



パンダさん
かわいいね

医務室より

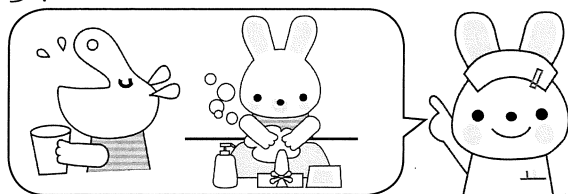
「気を付けよう!冬の感染症」

看護師 小沼純子

毎年のように流行するインフルエンザ等の感染症。特に空気が乾燥している冬場は原因菌やウィルスの活動が活発になり、感染力が高くなります。

感染ルートとして主なものは、咳やくしゃみ等の飛沫感染や、その飛沫が手や物に付着し、そこを触ったことで間接的に感染する接触感染です。予防には手洗い、うがい、手指消毒が大切!マスクの使用も効果的です。

これからの流行時期はこまめな「手洗い、うがい、手指消毒」!これを合言葉に感染症から体を守り、寒い冬を乗り切ってください!



跡 跡 跡

〔9月・10月〕

【寄付】

▼橋爪八重子様

▼池田洋様

▼緒形英夫様

▼鹿嶋市社会福祉協議会様

【来園者】

▼羽生明義様 (絵画指導) ▼アンサンブルウイズ様 (演奏ボランティア)

▼白十字総合病院様 (健康診断) ▼横田裕樹様 (会計監査) ▼永光パトナーズ 渡辺様 (会計指導) ▼マイナビ 小磯様 (システム指導) ▼潮来保健所 吉田様、他一名 (立入検査)

▼高坂防災様 (設備点検) ▼日立総合防災様 (設備点検) ▼水理技研様 (浄化槽清掃) ▼鹿嶋市 出津様、飯島様、松尾様 (法人一般検査) ▼中西西小学校 4年生 12名、大場様 (交流会) ▼聖徳大学 北畑様 (実習巡回)

▼東日観光 高橋様 (打ち合わせ) ▼石岡市 小林様、石塚様 (認定調査)

▼池田洋様、邦子様 (面会) ▼芳野富美子様 (面会) ▼久保田繁男様 (相談) ▼大久保可奈子様 (施設見学)

【日中一時支援】

▼本谷竜久さん (放課後支援)

▼飯野泉さん

【短期入所】

▼篠田純一さん

【退所】

▼岡田千枝子さん (10月9日付)

【施設実習】

▼聖徳大学 萩原美樹様 (8月31日~9月11日)

【9・10月誕生者】

▼橋爪恵子さん (9月9日)

▼湖林健司さん (9月21日)

▼石田直也さん (10月3日)

▼池田友子さん (10月4日)

▼平間尚輝さん (10月16日)

▼大部なおみさん (10月22日)

▼藤沼光司さん (10月24日)

▼鳥居貴裕さん (10月29日)

編集後記

中台ニュースは今回200号を迎えました!
第1号の発行が昭和59年6月で、実に34年と6カ月。中台の歴史を感じます。その第1号をめぐってみると、若かりし頃の利用者さんの笑顔がありました。今はちよっと増えたしわに時間の流れを感じますが、当時と変わらない笑顔を見せてくれます。そして、この頃はまだ生まれていない利用者さんもあるのだと思うと、34年という時間の長さを実感します。

記念すべき200号。その節目に携われたことを嬉しく思います。気持ちを新たに頑張っていきますので、これからもよろしくお願ひします!
(チヨダ)

